

### 「かしこく」～思考力を育む教育活動～

副校長 石川 貴美子

今年は暖冬で、寒いと感じる日が少ないです。子供たちは雪が積もることを楽しみにしておりますがこのまま春を迎えるのか、それとも子供たちの願いがかなうのでしょうか。

先週より長縄ウィークに入りました。各クラスで跳びたい縄跳びの技を決め、練習に励んでいます。

1月24日に現段階でどのくらい跳べるのか、クラスで決めた技に挑戦してみました。3分間に八の字跳びが100回跳べたクラスは「やったー。」と歓声があがっていました。つくし学級の子供たちも八の字跳びに挑戦していました。みんなで声を掛け合って跳んでいる姿がとても微笑ましかったです。2月6日に記録会があります。お時間がありましたら応援をよろしく願いいたします。

さて、先日、東京都のプログラミングの研修会へ行ってきました。講師の先生から「なぜ、今、プログラミング教育を行うのか。」という問いかけがありました。現在、人口の増加のピークを迎え、今後少子化が進んでくるため、人口が急激に減ります。そして人口の4割が60歳以上という時代が来ます。そのため生産性の向上を図ることができるように、人が命令を与えてコンピューターを動かす論理的思考と身近な問題に主体的に取り組む姿勢が必要となってくるのだそうです。

思考力を育てている学習は、普段の教育活動の中でも行っています。1年の図工の造形遊びの授業では、「わくわくロード」という題材に取り組んでいました。机の上には横3.5cm、縦38cmの細長い画用紙がたくさん切ってありました。子供たちの目の前にあるのは、その紙とセロハンテープと自分で持ってきたはさみのみでした。

太田先生の説明を聞いた後、子供たちはどのようにするのだろうと思って様子を見ると迷うことなく紙を手を持ちました。そしてセロハンテープをつけてどんどん長く伸ばす子、紙を折ってジグザグにする子、坂道にするために緩く山にする子などそれぞれが考えたことを夢中で表現していました。



取り組んでいくうちに、友達の道と自分の道をつなげて長くしたり、図工室のテーブルとテーブルの間の空間にも道をつくったりする子がでてきました。さらに道路を走る車を紙で作り出す子なども現れ考えをどんどん広げていきました。

また、同じ考えの子供たちが一緒に協力を始めたり、友達のつくっているものに影響や刺激を受けてさらに工夫を重ねたりしていて協同学習のよさも感じました。

授業の様子を見に来た校内の先生方は、子供たちの豊かな発想に目を丸くしていました。講師にみえられた先生からは、「造形遊びは作品をつくることにこだわらなくてもよい。こうした活動を通して子供の思考力、判断力、表現力を伸ばすことが大切だ。」と教わりました。



授業の最後には、図工室の中が子供たちのつくった道路で一杯になっていました。子供たちは、「楽しかった。」と満足気でした。「この次はこんなことしたい。」と次への意欲も感じられました。

来年度から新学習指導要領が全面实施され、プログラミング教育も始まります。研修会でも「まずは子供が楽しいと思える授業を展開して欲しい。」というお話がありました。「子供ファースト」の臨川らしく、子供が楽しく主体的に、そして未来に繋がる力を身に付けられるような学習を目指して来年度の計画づくりに取り組んでいます。